

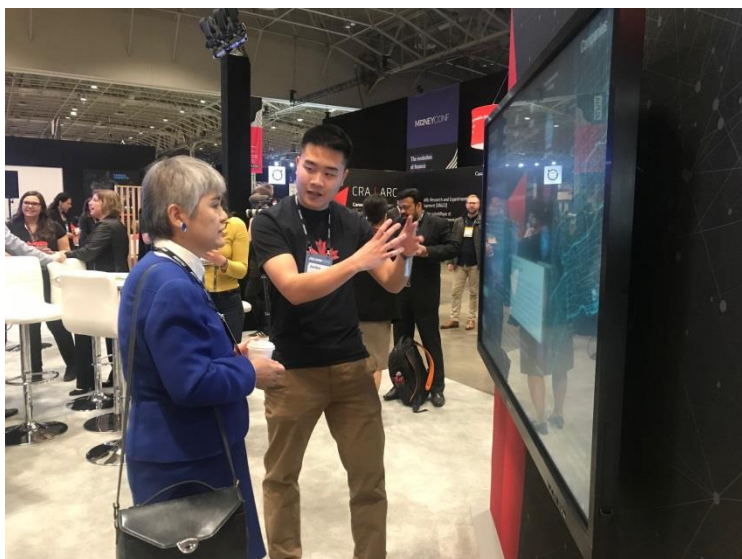
【伊藤総領事メッセージ 2019年6月】

オンタリオ州のトロントからウォータールーにかけての地域は、近年「北のシリコンバレー」(Silicon Valley North)と呼ばれるほど、IT、AI、ロボット工学、フィンテック等のイノベーション、いわゆる「テック分野」での研究と起業が盛んで注目を集めています。ウォータールーは、かつてスマートフォンで一世を風靡したブラックベリーが生まれた町で、地元のウォータールー大学は米国のシリコンバレーで働くエンジニアの出身大学のうち、最も多くの卒業生を輩出していると言われています。また、トロント市のMaRSをはじめとして、新しい技術を研究・開発し、これを適用してビジネスに結びつけていくためのインキュベーターや、その後さらにスケールアップしていくためのアクセレーターといわれる産官(学)組織がオンタリオ州内には多数存在しており、学生、技術者等の起業(スタートアップ)を支援する制度も充実していることから、最近では日本企業関係者によるこのような当地の組織の視察も増えてきているようです。



こうした中、5月20日から23日にかけてトロント市で開催された北米最大のテック関連国際会議「コリジョン」には、約25,700人が参加し、テック業界のスーパースターや政治家・ビジネスリーダー等による講演、新しい技術を持つ様々な起業家によるセールスピッチ、投資家たちによる商談や企業ブースでの売込み、技術関係者によるワークショップ等々が広大な会場内で繰り広げられました。5月20日夜のオープニングにはジャスティン・トルドー首相自らが参加し、カナダの開かれた移民政策が世界中の優秀な人材を受け入れていること、STEM分野の充実した教育、イノベーションを支援する政策や開かれた自由貿易政策

により、テック産業がカナダから世界各地への展開に有利であること等を熱くアピールしていました。自動運転、フィンテック、娯楽産業とテック産業、自然環境を守るための技術等、時宜を得たテーマを扱った様々な講演も多くの聴衆を集めていました。



日本からのテック企業関係者、またシリコンバレーで働いている日本企業の方々にもお会いしました。シリコンバレーでのビジネスコストが次第に上昇している中、いかに低コストでビジネスを運用するか、またいかに優秀な人材を確保するかはますます重要な課題になっており、最近その存在が徐々に知られるようになってきた「北のシリコンバレー」の様子を見にいらしたとのことでした。

日本政府もイノベーション分野には積極的に取り組んできており、Society 5.0に向けた様々な支援策の実施、高度外国人材の受入れ推進等を行ってきています。ロボットやAIを駆使した様々な技術は世界からも注目されており、来年の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機会にはその技術を生かした様々なおもてなしが外国人訪問客を驚かせることと思います。



<https://www.gov-online.go.jp/cam/s5/>

テック業界の方々による当地の視察や、カナダでパートナーを見つけての共同研究、共同運営を行う事例も徐々に増えてきているようです。当地のトロント大学と富士通が、昨年からのデジタルアニーラの共同研究を開始したのもその一例です。

先日、トロントのIT企業と共同で事業をされている日本企業の方に伺った話では、日本とトロントでは時差が13時間(夏時間)ないし14時間(東部標準時間)あるため、日本にいる研究チームが一日の終わりに研究案件のデータをオンタリオ州にいるチームに引き継ぎ、日本チームが休んでいる間にカナダチームが研究を進め、彼らが終業する時に再び出勤してきた日本チームに進捗したデータを引き継ぐという方法で、太平洋をまたいで絶え間無く開発が進められているとのことでした。13~14時間は電話会議等をする上では不便な時差ですが、それを逆手にとって活かしていく素晴らしい発想だと感動しました。また、実際に幹部の人々の交流や、カナダ人研究者を日本に長期派遣して日本チームとともに働くことに、お互いに学び合い、競争力も高まっているとのことでした。

カナダの高校や大学を訪問したり、当地進出企業の方々からお話を伺うと、カナダの若者は既に十代半ばから様々なビジネスマインドを持ってIT企業でインターンをしたり、ITを使ったビジネスのアイデアを膨らませ、事業を成功させようとしていたりしています。日本の若者にも、ぜひ大きな関心を持って世界のITビジネスの分野で活躍してほしい、と強く希望する次第です。